

令和8年度の学校評価

〈本年度の重点目標〉

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善
- 2 自立と社会参加に向けた豊かな学びの実現
- 3 つながりのある教育活動の推進
- 4 安全で安心できる学校づくりの推進
- 5 働き方改革の推進

学部	重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	1	・幼児児童の興味関心を高める教材、教具の研究を行い、指導の充実を図る。	・情報共有を密に行い、幼児児童の実態を丁寧に把握することで、一人一人が主体的に活動できる教材・教具を準備できるようにする。
	2	・食事に関する実態を捉え、個々に応じた支援をする。	・目標を部朝会で周知して食事に関することに意識を向けられるようにしたり、日々の給食指導で実態把握を行い、一人一人に合わせた指導・支援ができるようにしたりする。
中学部	2	・場面に応じた挨拶の仕方や適切な姿勢を身に付ける。	・各授業の始めと終わりの挨拶や教師への報告時に姿勢を確認する。 ・場面に応じた具体的な方法を伝えたり、体験的な活動を取り入れたりと、適切な挨拶や姿勢の定着を図る。
	5	・タイムマネジメントの意識向上を図る。	・教育の効果を落とすことなく業務の効率化を図り、創出した時間を生徒と向き合う時間につなげることができるよう、部全体でタイムマネジメントを意識しながら取り組む。
高等部	1	・ICTを有効活用し、授業内容の充実を図る。	・生徒が興味をもち、主体的に選択、学ぶことができるよう、ICTを活用した授業の充実を図る。 ・タブレット端末を使用した授業実践を共有できるようにする。
	2	・外部講師等、地域資源を活用する。	・社会人としての自覚をもてるような体験的学習を多く取り入れる。
施設内教育 けやき	2	・入院児の多様な実態に応じた学習活動を行う。□	・在籍児童生徒の実態や人数に応じた適切な指導方法について、病棟と連携しながらより良い教育活動を検討する。
	3	・保護者や関係機関との連携を密にし、入院児の退院後の円滑な学校生活につなげる。	・的確な実態把握を行う。 ・退院後も継続できる指導支援を行い、退院後の支援機関と情報共有をして連携を図る。
施設内教育 こばと・中央	3	・病棟職員との連絡帳や定期的に行う連絡会、リハビリ見学等による連携を深め、指導・支援の充実を図る。	・授業での変化や行事の様子等を連絡帳や通信を活用し、病棟職員との情報の共有を図る。
	4	・災害時の避難方法、連絡方法を確認し、病棟や学校と連携した避難訓練を継続して行う。	・学校の避難訓練に加え、愛知県医療療育総合センターの避難方法を確認し、実施できる避難訓練に必要に応じて参加する。

各重点目標の具体的方策と留意点

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善

担当分掌	具体的方策	留意事項
教務部	・タブレットを活用した授業計画の推進	・学齢や個に応じたタブレット端末による学習の活用法を整理し、授業計画の推進を促す。
教育情報部	・児童生徒用タブレット端末にインストールされているアプリケーションソフトを使って、児童生徒の実態に合った教材を作成できるようにする。	・keynoteやiMovieなど標準インストールされているアプリケーションソフトの基本的な操作や活用方法について自主参加型の研修を行う。
研修部	・ICT教材を活用した授業実践を行う。	・外部講師などによる研修を実施し、専門性の向上を図る。 ・校内研究で、ICTを活用した授業実践について学ぶ機会を作る。
自立活動部	・自立活動の指導案を新書式で整備し、指導の充実を図る。	・書式の作成に向けて、関係部署と連携して取り組む。 ・本校の指導案を元に、誰もが使いやすい、見やすい構成を意識して取り組む。

2 自立と社会参加に向けた豊かな学びの実現

担当分掌	具体的方策	留意事項
進路指導部	・正しい身だしなみやルールの周知を図り、自立に向けての指導・支援を学校生活全般や作業学習を通して行う。	・生徒指導部と連携して学校のルールを整備し、全職員が共通した認識で指導する。 ・地域の企業や事業所の協力を得て、体験や見学の場を設定する。
自立活動部	・自立活動室の整備に取り組み、安全で使いやすい環境を整える。	・教材・教具の紹介や使用方法を周知する。 ・より使いやすい環境を整えるため、管理方法を工夫したり、物品の状態を定期的に確認したりする。

3 つながりのある教育活動の推進

担当分掌	具体的方策	留意事項
進路指導部	・企業及び福祉事業所と連携して社会や地域への円滑な移行を目指す。	・地域の関係諸機関との情報交換を積極的に行う。
地域支援部	・子どもの発達について悩みをもつ保護者や、地域の小・中学校・高等学校等に対して、発達障害児等支援・指導検討会や巡回相談やあゆみ相談を行ったり、特別支援教育についての情報発信を行ったりして、センター的機能についての役割を果たす。	・他校務と連携し、地域が抱える諸課題に向き合い相談業務に努める。 ・個々の資質向上を図る研修の充実と、各関係機関との素早い連携に努め、チームで解決に向けた取組に努める。

4 安全で安心できる学校づくりの推進

担当分掌	具体的方策	留意事項
総務部	・学用品の購入手続きを円滑に行うことができるようにする。	・学用品の購入手続きの仕方が周知できるように、具体的な事例を提示して注意喚起を行う。 ・適正に購入がされているか定期的に確認をする。
生徒指導部	・避難訓練の充実を図る。	・状況に応じて避難場所や避難経路を変更するなど、実際に想定される場面を設定して実施することで、防災意識の定着及び向上を図る。
保健体育部	・緊急時の対応方法についてのマニュアル映像を活用し、事故発生後の体制について整備を行う。	・事故発生後の対応を実演し、分かりやすく映像化する。 ・緊急対応訓練で、マニュアル映像を全職員に示して周知し、実際の場面で活用できるようにする。 ・マニュアルの検証・見直しを行う。
地域支援部	・福祉に関する情報を収集・発信し、活用できる地域の資源を提示したり、職員や保護者との連携を図るためケース検討会を行ったりし、各関係機関との連携に努める。	・必要な情報の提供と、各関係機関との密な連携に努める。

5 働き方改革の推進

担当分掌	具体的方策	留意事項
総務部	・総務部管轄の文書や備品を整えて業務を円滑に行うことができるようにする。	・県指定行政文書ファイルの保管時期や管理場所を整理し、各分掌での適切な管理を図る。
教務部	・他の校務分掌との連携を密にし、業務軽減を図る。	・各校務分掌と業務内容を確認し、重複した内容があれば整理し、互いの業務負担を軽減できるよう体制を整える。
生徒指導部	・他の校務分掌と連携を図りながら、職員の業務負担の軽減を図る。	・業務内容の見直しをする。また、他の分掌に類似した業務内容がある場合は、業務内容を精選し、担当する分掌を一本化することで、業務負担の軽減を図る。
保健体育部	・水泳学習の実施に向け、学校全体として、現場職員の負担が軽減できるよう、運営方法を検討する。	・暑さによる突然の入水中止を避け、予定どおり実施できるよう、時間割を工夫する。 ・プールの管理等について、一部職員に過度な負担がかからないよう、全体で行えるよう計画する。
教育情報部	・AIを活用した働き方に職員が慣れるようにする。	・プロンプトの書き方や、さまざまな活用方法などを学べる自主参加型の研修を実施する。
研修部	・各種研修について、分かりやすい提示を行う。	・外部研修について、掲示板とグループウェアを活用して多くの職員に周知できるようにする。 ・初任者研修、経験者研修等の校内研修について、反省をもとに資料等を精選し、研修を進めやすいようにする。